第17回夢・未来熊谷ジュニア議会

【質問】質問番号１　市長公室関係

議席番号１　　別府中学校　　坂田（さかた）　あさひ　議員

安心して避難するために

熊谷市は台風や大雨の時に近くに利根川、荒川があるため、素早い避難が必要となりました。また、地震が発生した場合にも避難を要することがあります。しかし、密集が予想される緊急避難先での感染症対策が万全に行われているのか分からないため少し不安です。

そこで、避難先で感染症拡大の心配をしないように避難先での感染症対策について記載されているパンフレットのようなものを各家庭１部ずつ配布するのはいかがでしょうか。災害がいつ起こるか分からないこそ必要ではないかと思いました。

議席番号２　　奈良中学校　　山田（やまだ）　妃菜（ひな）　議員

水害対策について

近年、地球温暖化の影響で自然災害の発生頻度が高く、その一つとして各地で線状降水帯による水害が発生しています。熊谷市には自然豊かな大きな河川があり自慢である一方、水害のリスクは大きいと考えられます。よって、地域にあった対策をし、万が一水害にあったとしても逃げ遅れゼロにしたいと考えました。

そこで、地域ごとに講習会を開くことを提案します。熊谷市や地域には立派なハザードマップがあるものの、見たことがない方や見方がわからないという方がまだ多くいると感じています。自然災害から人を守ることができるのは、やはり、人なのだと思います。講習会や啓発活動など、すでにやっていることや今後やろうとしていることなどありましたら教えてください。

【答弁】 質問番号１　市長公室関係

市長

坂田あさひ議員さん、山田妃菜議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、坂田さんの、「安心して避難するために」ですが、新型コロナウイルス感染症は、現在も終息には至っていませんが、このような中でも災害が発生したときは、避難をしていただく場合もありますので、坂田さんの提案のとおり、避難先での感染症対策は大変重要です。熊谷市では、防災ハザードマップやホームページに避難所生活での心得として、感染予防について記載しているほか、市民の皆さん一人一人が避難時はもとより、普段から正しい感染症対策をしていただくことが重要と考え、令和４年７月に基本的な感染症対策をまとめたチラシを市報と同時に配布しました。これからも、市民の皆さんが安全に安心して避難していただけるよう、取り組んでいきたいと考えています。

次に山田さんの「水害対策について」ですが、近年、想定を超える降水量が記録されていることから、法律が改正され、洪水ハザードマップの想定が、これまでの200 年に１回程度発生する大雨から、1000 年に１回程度発生する大雨に変更されました。熊谷市でも、令和２年度に洪水ハザードマップを新たな想定に基づき作成し、市民の皆さんにお届けしました。山田さんの提案のとおり、せっかく配布した洪水ハザードマップも活用していただかないと意味がありませんので、各地域に出向いて行う市政宅配講座や自主防災会での説明、市報やホームページでの啓発等を行っています。これからも、より多くの人に洪水ハザードマップを周知し、万一のときには速やかな避難ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

危機管理監

続きまして、坂田あさひ議員さんの「安心して避難するために」にお答えします。

新型コロナウイルス感染症が広がる中でも全国各地で災害が発生しています。いざ災害が発生した場合には、避難が必要なことから、感染症に対応した避難所開設・運営マニュアルを作成しています。マニュアルでは、密閉・密集・密接を避けるため、出来るだけ多くの避難所を開設し、世帯ごとに広めの区画をとることや、発熱者等は専用スペースを確保し、ほかの避難者とは動線を分けること、マスクの着用やこまめな消毒、定期的な換気など感染症対策を徹底することを定めています。また、避難所用の備蓄品としてマスクや消毒液、非接触型体温計、区画を分けるパーティションなど感染症対策に有効な物資の備蓄も行っています。各家庭に配布しています防災ハザードマップには、避難所における感染予防のほか、避難時に持ち出すものとして、マスクや消毒用アルコール、体温計なども記載しています。

皆さんも防災ハザードマップで自宅や学校の災害リスクを確認し、家族や友達と避難するときのことを話し合うなど、いざ避難となったときに慌てずに行動できるよう準備をお願いします。

続きまして、山田妃菜議員さんの「水害対策について」にお答えします。

熊谷市では、自治会や市民団体などからの要望により、市の職員が地域に出向い

て行う市政宅配講座や、自主防災会が実施する防災訓練などで防災について説明しています。内容としては、洪水ハザードマップの見方やその地域で想定される水害等の危険な箇所を説明し、水害の危険性が高まってきたときに自分自身がとる避難行動をあらかじめ時系列で整理する洪水マイ・タイムラインの作成方法などを説明しています。

また、ケーブルテレビやＦＭラジオ放送に職員が出演して防災について説明をしています。そのほか市内で開催されるイベントに出展し、浸水のシミュレーション画像を使用した啓発や、子ども向けに分かりやすい防災講座なども行っています。

災害による被害を減らすためには、市民の皆さん一人一人の防災意識を高め、自ら考え、命を守る避難行動に結びつけていくことが大切なことから、これからもいろいろな方法で、啓発活動を行いたいと考えています。

【質問】質問番号２　総合政策部関係

議席番号３　　中条中学校　　山田（やまだ）　真央（まお）　議員
熊谷まちあるきアプリ「くまぶら」について

熊谷市では、熊谷まちあるきアプリ「くまぶら」でお得なクーポンの配布やスタンプラリーなど、たくさんのサービスが行われています。しかし、制度が充実しているのに対し、実際に知っている人が少ないように感じます。

そこで、「くまぶら」をたくさんの人に知ってもらうために、目につく場所へのポスター掲示、小中学校へのチラシ配布、また、小さな子どもたちも楽しめるよう、紙のスタンプラリーを実施するというのはどうでしょうか。限られた場所だけでなく伝統行事や建造物も対象とすることにより、市全体を散策してもらい、活気づけることができると思います。

議席番号４　　大麻生中学校　　薗田（そのだ）　夏乙（なお）　議員
ゆうゆうバスの利用について

熊谷市には、1 回たったの 100 円で乗れる便利な「ゆうゆうバス」があります。私も実際に利用したことがあり、この制度に助けられたこともあります。しかし、ゆうゆうバスのバス停から遠い人や高齢者の方などが、利用しにくいのではと思う時があります。

そこで、誰もが楽にゆうゆうバスを利用できるように、バス停からその人の自宅まで安く送迎する仕組みを作るのはどうでしょうか。

議席番号５　　富士見中学校　　齋藤（さいとう）　美奈子（みなこ）　議員
熊谷コラボ企画について

私たち熊谷市内の学生たちがもっと熊谷を知る・見る・食べるために市内のグルメ、図書館や史跡、などを交えた交流ができたらいいと思います。「雪くまスタンプラリー」のように、熊谷をめぐることができれば、名産品などをどんどん発信していけると思います。

【答弁】質問番号２　総合政策部関係

市長

山田真央議員さん、薗田夏乙議員さん、齋藤美奈子議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、山田さんの「熊谷まちあるきアプリ『くまぶら』について」ですが、「くまぶら」は、スマートフォンのアプリケーションを活用して、熊谷市にお住まいの方や熊谷市にお越しいただく方々に、熊谷のことを知って楽しんでいただくために始めた取組で、まちの様々なデータを活用するスマートシティの一環として進めているものです。「くまぶら」をもっとたくさんの人たちに知ってもらうため、山田さんから提案をいただいたように、もっとPRするとともに、史跡や歴史的建造物、伝統行事の案内などへ、活用の幅を広げていきたいと考えています。また、機能を追加するなどにより、便利で使い勝手の良いアプリケーションにしていきたいと考えています。

次に、薗田さんの「ゆうゆうバスの利用について」ですが、薗田さんには、ゆうゆうバスを利用いただき、ありがとうございます。ゆうゆうバスは、民間路線バスなどが走っていない地域を中心に、交通弱者といわれる高齢者や障害者の方など、多くの方々に御利用いただけるよう運行しています。薗田さんの提案は、人口減少や高齢化が進行する地域の課題解決のひとつとして考えられますので、そういった方法も含めて効果的な仕組みを研究していきたいと考えています。

次に、齋藤さんの「熊谷コラボ企画について」ですが、今年の夏、「雪くまスタンプラリー」を実施したときにはたくさんの方々に市内のお店を巡っていただきました。市内には、「雪くま」のほかにも、国宝である妻沼聖天山の「歓喜院聖天堂」をはじめ、多くの見所やグルメがありますので、齋藤さんからの提案のように、大勢の皆さんに現地での交流や知る・見る・食べるといった体験をしていただき、そういった体験談を交えて「熊谷の魅力」を広く発信していただけるようにしていきたいと考えています。

副市長

続きまして、山田真央議員さんの、熊谷まちあるきアプリ「くまぶら」についてお答えします。

「くまぶら」をたくさんの人に知ってもらうために、市内に拠点を置くラグビーリーグワンの「埼玉パナソニックワイルドナイツ」の試合や「雪くま」スタンプラリー等のイベント開催に合わせ、ポスターを掲示したりチラシを配布したりしています。

また、11月1日から開始した謎解きイベントでは、案内チラシを学校にも配布するようにしました。この謎解きイベントは、熊谷のある地域に隠された複数の謎を解きながらゲームを進めていくものです。ゲームは、スマートフォンを使い、「くまぶら」からの案内に沿って進めていきますが、小さなお子さんたちも、家族と一緒に楽しんでいただけるような「しかけ」も用意しています。

今後も、イベントの案内や実施方法を工夫して、大勢の皆さんが伝統行事や歴史

的建造物などを再発見したり、市内を散策していただけるような利用方法を考えていきたいと思います。

総合政策部長

続きまして、薗田夏乙議員さんの「ゆうゆうバスの利用について」にお答えします。

ゆうゆうバスは、鉄道や民間バスの路線から離れた不便な地域を少しでも解消するために運行しているものですが、それでも、薗田さんのお話のとおり、バス停まで遠い方の不便さは解消できていません。現在では、家族の送迎やタクシーを利用していただくことになりますが、市としても、ある程度の乗客が見込めるなどの条件が整えば、新たにバス停を設置することもできるようにするなど、解消に取り組んでいるところです。

ゆうゆうバスをより便利にするため、自動運転やＡＩ等の技術を活用することも考えながら、多くの方々が利用しやすく安価に移動できる仕組みを考えていきたいと思います。

続きまして、齋藤美奈子議員さんの「熊谷コラボ企画」についてお答えします。

熊谷市には、名物かき氷「雪くま」の他にも「五家宝」や「うどん」、様々なお店のグルメ、宮塚古墳や幡羅官衙遺跡群などの史跡、図書館や星溪園などの文化施設がたくさんあります。さらに、妻沼聖天山の「歓喜院聖天堂」のように国宝に指定された歴史的建造物もあります。

これらの情報については、ホームページやパンフレットなどで、周辺にある観光施設や飲食店、名産品などとあわせて紹介していますが、齋藤さんの提案のように、実際に現地を巡っていただく方法も、「熊谷の魅力」を直接感じることができる、有効な手段であると考えています。

また、お店で食べたグルメや、訪れた史跡の鑑賞体験などを周りの人たちにお話していただくことで、たくさんの方々に熊谷の魅力を知っていただくことにつながるものと考えています。今後は、より大勢の皆さんに市内のお店や名所に出かけていただく仕掛けを作り、「熊谷の魅力」をたくさんの方々に伝えていただけるようにしていきたいと考えています。

【質問】質問番号３　総合政策部関係

議席番号６　　玉井中学校　　阿部（あべ）　斡太（かんた）　議員
地元のラグビーチームについて

僕たちの熊谷には「埼玉パナソニックワイルドナイツ」というラグビーチームがあります。ワイルドナイツはNTTジャパンラグビーリーグワン2022で優勝し、パレードも行われました。しかし、このワイルドナイツの本拠地が熊谷であることがあまり知られていないように感じています。忙しい中ではありますが、学校に来ていただき、特別授業や交流できる時間を設けたり、試合に招待していただいたりして、もっと知ってもらい、熊谷市全体で盛り上げていくのはいかがでしょうか。

議席番号７　　妻沼東中学校　　佐藤（さとう）　凛花（りんか）　議員
ラグビータウン熊谷について

私の父は、埼玉パナソニックワイルドナイツのファンクラブに入っていて、ラグビーの大ファンです。ラグビーの試合があるのは、体力など、様々な理由があり、12月から5月までで、そのうち熊谷ラグビー場で試合をするのは10回もないと父から聞きました。そう考えると、年間365日中の10日より少ない日数しか「ラグビー」の試合で熊谷市に人々が来ないということになります。

そこで、ラグビー場をたくさん使い、試合以外にラグビーの体験ができるイベントなどをするのはどうでしょうか。そうすれば、ラグビータウン熊谷として、市が活発化すると思います。

【答弁】質問番号３　総合政策部関係

市長

阿部斡太議員さん、佐藤凛花議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、阿部さんの「地元のラグビーチームについて」ですが、昨年８月から熊谷スポーツ・文化公園を拠点に活動する「埼玉パナソニックワイルドナイツ」は、見事ジャパンラグビーリーグワン初代王者の栄冠に輝きました。
９月に優勝パレードを開催したときには、多くの市民やファンの皆さんが祝福に集まってくれたほか、新聞などでも大きく報道され、熊谷市のチームとして多くの皆さんに知っていただくことができたものと考えています。ワイルドナイツは、この熊谷市にとって貴重な存在です。阿部さんの提案も参考にしながら、市民の皆さんと一緒に、さらに盛り上げていきたいと考えています。

次に、佐藤さんの「ラグビータウン熊谷について」ですが、ラグビータウン熊谷は、熊谷ラグビー場が完成した平成３年に、熊谷市のイメージアップ事業のひとつとしてスタートしました。以来、熊谷ラグビー場は国内有数のラグビー専用競技場として多くの試合が行われ、ラグビーワールドカップ 2019 の会場になるなど、日本を代表するラグビー場となっています。　熊谷ラグビー場では、ワイルドナイツの試合のほか、ラグビー日本代表戦や大学ラグビー、そして、高校の全国大会など、年間を通して多くの試合が開催されています。佐藤さんの提案についても、ラグビータウンをさらに盛り上げられるよう、埼玉県やワイルドナイツなどと相談していきたいと思います。

総合政策部長

続きまして、阿部斡太議員さんの「地元のラグビーチームについて」にお答えします。
熊谷に拠点を移し、輝かしい成績を収めている埼玉パナソニックワイルドナイツは、本拠地を熊谷市に移転する前から、選手が別府小や成田小を訪れ、ラグビーのデモンストレーションや夢の実現に向けたアドバイスなどを行っていました。残念ながら、新型コロナウイルスの影響もあり、自粛が続いていましたが、これからの状況を見ながらチームと相談し、このような機会を増やしていきたいと思います。
また、今年始まったジャパンラグビーリーグワンの試合では、チームが運営する熊谷ラグビー場での試合に、熊谷市内の小中学生を招待する取組も行われたところです。阿部さんの言われたとおり、皆さんに知っていただくのは大切なことです。ワイルドナイツとも協力しながら、広くＰＲしていきたいと思っています。ぜひ、みんなで盛り上げていきましょう。

続きまして、佐藤凛花議員さんの「ラグビータウン熊谷について」にお答えします。
熊谷ラグビー場では、ジャパンラグビーリーグワンを始め、多くの試合が開催され、Ａグラウンドだけでも土日を中心に年間約 40 試合が行われています。これらの試合以外でも、例えば７月には、アルカス熊谷の選手やコーチも参加し、タック

ルやパス、ラインアウトなどによるラグビー体験イベントが行われました。また、９月には、ワイルドナイツの拠点である「さくらオーバルフォート」のグラウンドで、開設１周年を記念し、同じようなラグビー体験イベントが行われました。

　このほかにも、ワイルドナイツファン感謝イベントやくまがやラグビー祭りなどラグビーに関するイベントがありますが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止されているものもあります。これからの状況を見ながら、このようなイベントの再開やラグビー体験イベントの開催などについて、ワイルドナイツやアルカス熊谷などと相談していきたいと思います。佐藤さんも、ぜひ楽しみにしていてください。

【質問】質問番号４　市民部関係

議席番号８　　江南中学校　　菅野（かんの）　元輝（もとき）　議員
ごみ拾いのイベントについて

私がいつも通る通学路の歩道は、最近ごみのポイ捨てが増えているように感じます。特に草が生い茂っている所などの、陰になっていて見えにくい所にごみが捨てられています。近所の方々と協力してごみ拾いをすることもあります。車に乗って市内を移動するときも歩道に捨てられたごみが目につきます。

そこで、年に数回、市全体でごみ拾いのイベントを開催し、拾ったごみの量に応じて熊谷市で使用できるクーポンなどの景品を配布するのは、いかがでしょうか。

議席番号９　　別府中学校　　増田（ますだ）　悠人（ゆうと）　議員
自転車事故を減らすには

熊谷市では自転車事故がとても多いと聞きました。昨年、中学一年生には自転車交通安全利用五則が記載されているクリアファイルが配布されました。私の学校ではクリアファイルに記載されていたことをしっかり守り自転車を利用しています。このことを私の家庭にも伝えたいと思いました。

中学生向けの取組のほかに、大人の方へ向けた自転車の利用方法に関する取組はどのようなものがあるのでしょうか。

議席番号１０　　妻沼西中学校　　吉田（よしだ）　尊道（たかみち）　議員
空き家バンクの活用について

私の家の近くには小さい頃から空き家があり、昔から小さい子供たちが怖がっていました。そして、熊谷市には空き家への対処として、空き家を貸し借りすることができるサイトがあることを知りました。このサイトがもっとよい効果を発揮するために、各自治体と協力し、空き家の正確な位置と数を把握し、広報活動をすることを提案します。

議席番号１１　　大幡中学校　　田中（たなか）　來愛（くれあ）　議員
少子高齢化への取り組みについて

私は、少子高齢化の到来により、血液製剤を多く必要とする治療行為が増加する半面、献血者層である若年者が減少して、血液不足が生じる恐れが問題になっていると、知りました。これからの社会を担っていく私たち若年者は、血液の必要性を十分に理解し、安定した血液製剤の供給のため、献血に協力することを求められているのだということを学ぶ必要があると思いました。そこで、熊谷市の中学・高校で日本赤十字社の方をお招きし、講演会を行うことを提案します。

【答弁】質問番号４　市民部関係

市長

菅野元輝議員さん、増田悠人議員さん、吉田尊道議員さん、田中來愛議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、菅野さんの「ごみ拾いのイベントについて」ですが、熊谷市では、年２回の５３０（ごみぜろ）運動を実施しています。菅野さんの地元でも、５３０運動が行われているのではないでしょうか。ぜひ、家族の方と一緒に参加してみてください。また、菅野さん提案の「クーポン」と趣旨は同じになりますが、地域の清掃活動をはじめとした活動に参加したときに、ポイントがつき、そのポイントを貯めて、利用できる、コミュニティポイントの仕組みを検討しています。市民の皆さんが楽しみながら、熊谷市の地域活動がより活発になることを期待しています。

次に、増田さんの「自転車事故を減らすには」についてですが、最近では身近な交通手段である自転車は、健康志向の高まりや環境への配慮などにより、利用者が増えていますが、一方で自転車利用者のルール違反やマナーの悪さによる事故も発生している状況です。今年４月に道路交通法の一部が改正され、これからは、全ての自転車運転者は、乗車中ヘルメットをかぶるよう努めなければならないこととなります。こうしたことから、これからも、自転車事故を減らすため、ヘルメット着用の大切さや警察署と協力しながら各種啓発活動を通じて交通ルールやマナーの周知を図り、事故防止につなげていきたいと考えています。

次に、吉田さんの「空き家バンクの活用について」ですが、少子高齢化や核家族化などに伴い、全国的に空き家となる住宅等の発生が問題となっています。このため、熊谷市でも様々な空き家対策に取り組んでいますが、そのひとつが、吉田さんの質問にありました、空き家バンクの取組となります。熊谷市では、埼玉県北部地域の６市町と連携し、不動産関係団体の協力をいただいて、「埼玉県北部地域空き家バンク」を共同で運営しています。これからも、空き家を持っている人と、空き家に住みたい人をつなぐお手伝いをすることで、移住・定住による地域の活性化を図っていきたいと考えています。

次に、田中さんの「少子高齢化への取り組みについて」ですが、世の中には、がんなどの治療のために、血液を必要としている患者さんが大勢いますが、輸血に使用する血液は、人工的に作ることができず、長期保存することもできません。一方、１人当たりの献血の回数や量には制限があるため、多くの人の献血への協力が必要となります。今後も安定して輸血用の血液を供給するためには、若い世代の献血への理解と協力が必要です。こうしたことから、熊谷市としましても、埼玉県や埼玉県赤十字血液センターが行う取組に協力するなど、さらに献血の普及啓発に努めていきたいと考えています。

市民部長

続きまして、菅野元輝議員さんの「ごみ拾いのイベントについて」にお答えします。

熊谷市には、住みよい地域社会の実現を目的とし、自治会や事業者、その他の団体で構成されている「熊谷市コミュニティづくり市民協議会」があります。その活動のひとつが、春と秋、年２回の５３０運動です。それぞれの地域、団体ごとに日程を決めて、生活している地域周辺のごみ拾いなどの清掃活動を行っていただいています。この活動は、まちをきれいにするだけでなく、地域コミュニティの活性化にもつながっています。また、熊谷市では、それぞれの地域で、たくさんの市民の皆さんが、清掃活動のほか、防犯、防災、子どもの見守り等、様々な活動を行っています。

これからも、皆さんが地域活動に関心を持ち、楽しんで参加して、その活動が継続されるきっかけとなるよう、活動に参加したときに、ポイントがつき、そのポイントを貯めて、利用できるコミュニティポイントの導入に向け、検討していきたいと考えています。

続きまして、増田悠人議員さんの「自転車事故を減らすには」についてお答えします。

熊谷市では自転車に乗る機会が増える新中学１年生に自転車安全利用五則を記載したクリアファイルを配布しています。これは、自転車に乗る全ての方が守るべき特に重要な交通ルールである自転車安全利用五則への理解を深め事故のないよう自転車を利用してもらうことを目的としています。令和３年中に埼玉県内における自転車乗用中の交通事故死者数は３４人で、そのうち高齢者が２３人と全体の６割以上を占めています。そのため、特に自転車事故の多い高齢者の方々に対して、熊谷警察署員や交通指導員が地域の公民館等に出向き、交通安全講話や実技指導を行っています。また、熊谷駅や市役所、スーパーマーケットでの街頭啓発、広報車での呼びかけを行っているほか、市報や「メルくま」でも広報活動を行い、周知を図っています。

これからも、全世代に向けて高齢者に配慮した運転を心がけてもらえるよう関係団体と協力して、自転車に乗るときに守るべき交通安全教育を推進するとともに、自転車事故を減らすために市民の皆さんへの交通安全意識の向上、交通マナーの啓発を進めていきます。

続きまして、吉田尊道議員さんの「空き家バンクの活用について」にお答えします。

「埼玉県北部地域空き家バンク」は、空き家を貸したい、売りたいと考えている所有者の方と、空き家を借りたい、買いたいと考えている方のマッチングをサポートすることで、空き家の利活用を促すとともに、埼玉県北部地域への移住・定住も促すことを目的としています。空き家の正確な位置や数の把握については、今年度、市内全域を対象とした空き家の実態調査を行っているところです。空き家バンクを有効なものとするためには、空き家をお持ちの方の御理解と御協力が欠かせません。また、空き家バンクに掲載している情報は、どなたでも御覧いただくことができますが、空き家となっている建物の登録を希望する場合や、賃貸・売買などの交渉を行うためには、別に申込み手続等が必要となります。

これからも調査で把握できた空き家の所有者等だけでなく、全ての市民の皆さんに対し、「市報くまがや」や市ホームページへ情報を掲載するなど、空き家バンクの周知に努めていくほか、引き続き、他の自治体等と連携し、空き家バンクを通じた空き家の利活用及び埼玉県北部地域の活性化に努めていきたいと考えていま

す。

続きまして、田中來愛議員さんの「少子高齢化への取り組みについて」にお答えします。

田中さんが指摘されたとおり若年層の献血者数はここ数年減少傾向にあります。県内の16歳から19歳の献血者数は、平成30年度に8,174人で献血者全体の6.5%でしたが、令和3年度は5,514人で全体の4.3%まで減少しました。近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、高校や大学を会場とする移動献血車での献血の中止が相次いだことや、学生向けの出前講座実施の機会が減少したことなども要因の一つとして考えられます。

埼玉県では、小学生から高校生を対象とした「血液に関する出前講座」を実施しています。埼玉県赤十字血液センターの血液の専門家が、血液の役割や働き、輸血、白血病、身近な貧血、血液に関する感染症などについてわかりやすく教えてくれます。出前講座を希望する場合は各学校から申込みが可能です。現在はオンラインでの講演も実施しています。

また、熊谷市の取組としては、市報やホームページ、メール配信サービス「メルくま」などで、市役所での献血実施日や献血ルームでのキャンペーン情報などをお知らせしています。

皆さんも、献血ができる16歳になったら、「メルくま」に登録して、必要な情報を収集し、献血への協力をお願いします。

【質問】質問番号５　福祉部関係

議席番号１２　　富士見中学校　　藤ヶ谷（ふじがや）　惺吾（せいご）　議員
運転免許証を自主返納した高齢者の方へのサービスについて

現在、熊谷市では運転免許証の自主返納をした高齢者に対して、「ゆうゆうバス」の利用時に運転経歴書や、無料乗車券を提示すると、運賃無料のサービスを行っています。車がなく、足腰の悪い高齢者にとって有効な移動手段であると思います。しかし、バス停に行くまでが大変で利用しづらいと、以前自主返納をした祖母から聞きました。

そこで、タクシー割引券や回数券のサービスを追加するのはどうでしょうか。バス停の位置に関わらず、外出しやすくなると思います。また、外出の主な目的も食料品や日用品の買い物だと思われます。そのため、地域のスーパーなどと提携して、買い物の手助けができるようにするのはどうでしょうか。

議席番号１３　　大原中学校　　長谷部（はせべ）　美孔（みく）　議員
ニャオざね元気体操について

市のホームページに、「ニャオざね元気体操」が掲載されています。高齢社会の今、お年寄りにいつまでも健康で過ごしていただくために、この体操をぜひ広めたいと思いました。しかし、この体操を知っている人はまだ少ないです。また、ホームページに載っている説明では難しいと思います。そこで、様々な人が気軽に「ニャオざね元気体操」ができるよう動画にしたり、小・中学生も取り組めるようにしたりするのはいかがでしょうか。私たち小・中学生も、家で祖父母と体操することができると、家族のふれあいが増えると思います。

議席番号１４　　熊谷東中学校　　倉林（くらばやし）　夏希（なつき）　議員
相談しやすいヤングケアラー

最近、テレビや本で「ヤングケアラー」という言葉を多く耳にします。また、ヤングケアラーになってしまっても学校やスマホなどを通じて相談できる環境になってほしいと思います。

しかし、相談する相手が先生であったり、見知らぬ人であったりすると話しづらくなかなか相談する一歩が踏み出せず抱え込んでしまう人もいると思います。

そこで、同じヤングケアラー同士が話し合えるオープンチャットをホームページに作るのはいかがですか。オープンチャットを作ることで同じヤングケアラー同士安心して普段話せないような話でも気軽に話せたり、相談できると思います。

議席番号１５　　妻沼西中学校　　関口（せきぐち）　莉奈（りな）　議員
児童ふれあいセンターについて

熊谷市にある児童ふれあいセンターは現在休館中ですが、市内に一つしかありません。これから増やす計画はあるのでしょうか。

私の住んでいる妻沼から市街地まで車で 20 分ほどかかります。ですから開館していたとしても行くことが難しいです。私の小 6 の弟は児童クラブに入っておらず、夏休みの日中はほとんど一人で過ごしていました。友達とは主にオンラインゲームで遊んでいました。他にもこのような家庭は多いと思います。

空いた学校などを使ったりして、休み中の小学生が集まって勉強したり、体をつかって遊んだりできる機会をつくることについて、今後どのようにお考えでしょうか。

【答弁】質問番号５　福祉部関係

市長

藤ヶ谷惺吾議員さん、長谷部美孔議員さん、倉林夏希議員さん、関口莉奈議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、藤ヶ谷さんの「運転免許証を自主返納した高齢者の方へのサービスについて」ですが、令和２年度の高齢社会対策基本計画策定時に実施したアンケートでは、車の運転ができなくなった後の生活への不安について、多くの意見をいただいており、移動手段の確保が重要な課題であると考えています。そのような中、今年度、「熊谷市地域公共交通計画」を策定する予定であり、運転免許証の自主返納者を含め、交通弱者に配慮した計画となるよう進めていきたいと考えています。

次に長谷部さんの「ニャオざね元気体操について」ですが、体操は平成２８年度から開始し、本年９月末現在で 49 グループと順調に増え続けていますが、市民の認知度は十分とは言えません。今後も体操のさらなる普及を図り、市民が健康で自分らしく地域で暮らし続けることができるよう支援していきます。

次に、倉林さんの「相談しやすいヤングケアラー」についてですが、ヤングケアラーは、家庭内の複雑な事情もあり、表面化し難い問題と言われております。気軽に相談できる場所があることが、問題の早期発見、早期解決に結びつくことと考えます。

次に、関口さんの「児童ふれあいセンターについて」ですが、現在、石原小学校の近くの蚕業試験場跡地ひろばに、天候に左右されずに学生が集まって勉強したり、体をつかって遊んだりできる施設として、「熊谷市子育て支援・保健拠点施設」の整備を進めていますので、楽しみにしていてください。

福祉部長

続きまして、藤ヶ谷惺吾議員さんの「運転免許証を自主返納した高齢者の方へのサービスについて」お答えします。

タクシー割引券等のサービスですが、熊谷市の公共交通施策や今年度策定中の「熊谷市地域公共交通計画」の内容を踏まえながら、実施の可能性について考えていきたいと思います。

また、買い物の手助けについてですが、熊谷市では、高齢者のニーズと支援をつなぐ生活支援コーディネーターを配置し、住民主体の地域づくりを支援する生活支援体制整備事業を実施しています。その一環として、熊谷青果市場青果商組合を中心とした「あんしん市場」や、株式会社カスミによる「カスミ移動スーパー」の移動販売が市内 60 か所で実施されています。

今後も高齢者のニーズに合った生活支援体制を充実できるよう支援していきたいと考えています。

続きまして、長谷部美孔議員さんの「ニャオざね元気体操について」お答えします。

ニャオざね元気体操を広めるため、体操の動画活用や、小・中学生も体操ができるようにといった取組は大変参考となる提案だと思います。今後、広く市民の方に知っていただけるよう、体操動画を活用していきたいと思います。また、小・中学生の皆さんが家族と一緒に体操に取り組めるよう、市が学校を訪問して行っている認知症サポーター養成講座の中で、動画を紹介していきたいと考えています。

続きまして、倉林夏希議員さんの「相談しやすいヤングケアラー」についてお答えします。

ヤングケアラー同士が気軽に相談し合える場があることは、とても心強く、特にＳＮＳを活用することは、現代の若者にとって、とても身近な利用し易いものと思います。しかし、オープンチャットは自由に投稿ができるため個人情報等の課題もあり、すぐに開設することは難しいと考えています。

なお、埼玉県が開設している「埼玉県ヤングケアラーチャンネル」は、一対一のＬＩＮＥによる相談になりますが、話を聴く相談員は全員元ヤングケアラーが対応しているため、経験者だからこそできる共感やアドバイスを受けることができます。

また、電話や対面になりますが、こども課では家庭児童相談員がヤングケアラーの相談にも応じており、相談を受けた場合には解決に向けて関係部署と協力して取り組んでいきますので、安心して相談していただきたいと思います。

続きまして、関口莉奈議員さんの「児童ふれあいセンターについて」にお答えします。

熊谷市では、夏休み期間に学校を利用した遊びの場、学びの場の提供はしていませんが、子どもたちが自由に学んだり遊んだりする施設として９つの児童館を設けています。関口さんが住んでいる妻沼地区にも２つの児童館がありますので、是非利用してください。また、長期休暇中の小学生の学びの機会として、科学実験や自然観察を行う「ウィークエンドサイエンス」や熊谷市の歴史や文化などについて学ぶ「わくわく探検隊」などの体験活動を実施しているほか、プラネタリウム館や図書館でも様々なイベントを開催しています。これからも夏休み期間中の子どもたちが充実した時間が過ごせるよう、取組を充実させていきたいと考えています。

また、子どもが遊んだり学んだりする新しい施設として、石原小学校の近くにある蚕業試験場跡地ひろばに「熊谷市子育て支援・保健拠点施設」の整備を進めています。この施設内に設ける（仮称）こどもセンターには、大型遊具を配置した「遊戯室」やスポーツを行う「軽体育室」、科学工作を行う「工作室」などに加え、音楽室や交流スペースも設ける予定です。低年齢の子どもだけでなく、中高生や保護者にとっても居心地の良い施設となるよう、整備を進めています。

【質問】質問番号６　環境部関係

議席番号１６　　熊谷東中学校　　樽見（たるみ）　瑛太（えいた）　議員
ムサシトミヨの知名度について

私たちの学校では、生徒たちがムサシトミヨの保護を行っています。ですが、私たち中学生がムサシトミヨについて知っていることはあまりない気がしました。

そこで熊谷に住む人々がムサシトミヨの理解を深めるために、ムサシトミヨについて学んだことを発表するなどのイベントを開催するのはいかがでしょうか。

議席番号１７　　大麻生中学校　　中嶋（なかじま）　優斗（ゆうと）　議員
CO2 排出量を減らすために

地球温暖化が急激に進行し、全国各地で大規模な災害が起こっているのが現状です。その対策の一つとして CO2 排出量をゼロにするというのがあります。しかし、実際に頭では分かっていても行動するのは難しいことです。

そこで、学校で配られるエコライフシートを地域の人々にも配布して意識改革を行い、少しでも多くの人に協力してもらうというのはどうでしょうか。

議席番号１８　　玉井中学校　　米光（よねみつ）　彩音（あやね）　議員
食品ロス削減に向けて

私は夏季休業期間中にボランティアで食品ロスについて学びました。その際に、社会的に食品ロスが問題化されていることを知り、食品や食材を大切にすることと、この問題を多くの人に知ってもらうことが必要だと感じました。

そこで、熊谷市のホームページでポスターを募集するのはいかがでしょうか。どの世代の方でも応募できるようにし、ポスター作成を通して食品ロスについて少しでも知っていただけたら良いと思います。また、募集したポスターを熊谷駅などに貼って多くの人の目にいきわたるようにするとより良いと思います。

議席番号１９　　吉岡中学校　　横森（よこもり）　栄太（えいた）　議員
ごみ箱の設置について

僕の通っている吉岡中学校では、委員会や生徒会を中心に挨拶運動を行っています。また、その時にごみ拾いも同時に行っています。

しかし、拾ってもまた２、３日後には歩道にごみがポイ捨てされています。熊谷市をごみ一つない街にしていくためにも、ポイ捨てしにくい状況をつくることが必要だと思います。そのために、ごみ箱をもっと多く設置するのはどうでしょうか。また、街の外観を崩さないためにも、デザインを工夫した、その景色に合ったごみ箱が良いと思います。

【答弁】質問番号６　環境部関係

市長

樽見瑛太議員さん、中嶋優斗議員さん、米光彩音議員さん、横森栄太議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、樽見さんの「ムサシトミヨの知名度について」ですが、ムサシトミヨは、御承知のとおり世界で熊谷だけに生息する希少生物で、樽見さんをはじめ、熊谷市の小中学校の皆さんに保護活動を行っていただいており、大変感謝しています。

熊谷市民がもっとムサシトミヨのことを知る機会を設けることは、大切なことだと考えます。このため、市の環境イベントなどにより、ムサシトミヨとふれあう場を数多く提供し、理解を深めていただきたいと思います。

また、今後も保護活動などを通して、ムサシトミヨへの愛情を深めていただければと思います。

次に、中嶋さんの「CO_2排出量を減らすために」ですが、CO_2排出量の削減は持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標であり、また地球温暖化による気候変動は、台風等の災害が増加するばかりでなく、農作物や生態系へも大きな影響を及ぼしています。熊谷市では、本年 10 月 28 日に「ゼロカーボンシティくまがや」を宣言し、2050 年までに CO_2排出量を実質ゼロにすることを目指して取組を進めているところです。

提案のとおり、エコライフシートについては、CO_2排出量削減の意識改革に有効であると考えていますので、周知方法を踏まえて活用を進めます。中嶋さんも、CO_2排出量削減に向けて日々の生活のなかで出来る取組もありますので、これからも御協力をお願いします。

次に、米光さんの「食品ロス削減に向けて」ですが、農林水産省の推計によると、令和２年度の日本の食品ロス量は、約５２２万トンで、毎日国民一人当たり、お茶碗１杯分の食料を捨てている計算になります。食料を生産するためには、多量のエネルギーを消費します。また、廃棄することになれば、市のごみ処理経費が増大するだけでなく、運搬や焼却により、地球温暖化の原因となるＣＯ２を余分に排出することになります。

食品ロス削減のためには、私たち一人一人が、食品ロスを意識し、必要なものだけを購入して、食べきるなど、身近なことから実践することが大切です。今後も、更なる周知・啓発に努めますので、米光さんも御協力ください。

次に、横森さんの「ごみ箱の設置について」ですが、日頃から吉岡中学校の皆さんが、地域のごみ拾いを行っていること、本当にありがとうございます。

ポイ捨てを防止するためには、横森さんの考えのとおり、ポイ捨てできないような、綺麗な環境を維持することが重要です。最近では、世界的にも、マイクロプラスチック問題による海洋汚染等、ごみのポイ捨て抑止への機運が高まっています。きれいな環境の維持や、ごみ捨てマナーの啓発には、行政だけでなく、市民の皆さんの協力が必要です。現在、熊谷市では、ごみゼロ運動をはじめ、市民が主体となった様々な環境美化活動が行われていますが、このような取組が市全体に広がり、

美しい熊谷市が、いつまでも保たれるよう、ぜひ、皆さんも御協力ください。

環境部長

続きまして、樽見瑛太議員さんの「ムサシトミヨの知名度について」にお答えします。

日頃からムサシトミヨの保護、増殖活動に力を注いでいただきありがとうございます。ムサシトミヨは熊谷東中学校のほか、佐谷田小学校、久下小学校でも増殖活動をしていただいていますが、３校の活動の成果を発表する機会として「繁殖報告会」というイベントを実施しています。新型コロナウイルスの影響により、ここ２年間は中止となっていますが、本年度は感染の様子を見ながら出来る限り実施したいと考えていますのでぜひ御参加をお願いします。

また、熊谷市では５月下旬に環境問題に関する意識啓発を目的にエコライフフェアというイベントを２日間実施しています。このうち、八木橋会場ではムサシトミヨの水槽展示を行っており、来年度は学校での取組を含めて保護活動の紹介ブースを設けたいと考えていますので、参加をお願いします。

続きまして、中島優斗議員さんの「CO_2排出量を減らすために」についてお答えします。

皆さんも知っているように、近年の気候変動により激甚災害が各地で多発しており、地球温暖化対策は喫緊の課題となっています。その一環として、小中学校の皆さんには、埼玉県の事業である「エコライフＤＡＹ・ＷＥＥＫ埼玉」に参加いただき、環境に配慮した生活をお願いしているところです。

さて、提案いただきましたエコライフシートですが、地域の皆様への配布については、意識改革や、地球温暖化防止対策の推進に役立つと思いますが、現在はコロナ禍ということもありますので、紙ベースのシートを配布するのではなく、インターネット上にて取り組んでいただけるよう市報等で広く周知し、参加を呼びかけています。

また、エコライフシートに限らず、地球温暖化対策として有効な意識改革や行動変容のきっかけ作りのため、熊谷市地球温暖化防止活動推進センターとともに、市民向けの様々なイベントを展開し、HP 等でお知らせしていますので、ぜひ注目してみてください。

続きまして、米光彩音議員さんの「食品ロス削減に向けて」にお答えします。

日本の年間食品ロス量のうち、約半分の２４７万トンは、私たちの家庭から排出されています。このため、熊谷市では、市報やホームページで、家庭ですぐに始められる食品ロス削減のための実践例を紹介しているほか、家庭で余っている食品を集めて、必要としている方にお届けする「フードドライブ」という、ＮＰＯ法人が実施している取組を支援しています。

また、市が事務局である環境衛生協議会では、市内の小学校５・６年生を対象に、自然保護や地球温暖化等をテーマとした環境ポスター作品展を実施していますが、今年からは、食品ロス問題をテーマの一つに追加し、その作品も多数応募していただきました。この作品展では、毎年優秀な作品を集め、一つのポスターにして、市役所や小・中学校等に掲示していますが、米光さんの提案のとおり、今後は熊谷駅連絡所や籠原駅連絡所にも掲示したいと思います。

続きまして、横森栄太議員さんの「ごみ箱の設置について」にお答えします。

ごみのポイ捨ては、ルールやマナーが守られないことが大きな要因です。ポイ捨て防止の取組として、ごみ箱を設置する方法もありますが、普段から街を綺麗に保ち、ごみをポイ捨てしないよう、意識を高めてもらうことも大切です。熊谷市では、自治会ごとに環境美化推進員を委嘱して、集積所を中心とした地域の美化活動をお願いしているほか、春と秋のごみゼロ運動、公園サポーター制度やロードサポーター制度など、民間が主体となった、様々な環境美化活動が行われています。

きれいな街の維持と、環境美化意識の向上を図るには、市民の皆さんの力が必要です。これからも、環境美化活動を市全体に広げ、美しい熊谷市が守られるように取組を続けたいと思います。吉岡中学校をはじめ、中学生の皆さんには、これからも身近な環境美化活動に、協力をお願いします。

【質問】質問番号７　産業振興部関係

議席番号２０　　吉岡中学校　　大谷（おおや）　萌夏（もえか）　議員
熊谷の未来像

現在の熊谷市には、若い世代も楽しめる場所が少ないです。駅を中心として、河川敷も含め若い世代の集う場所が必要だと思います。まず、河川敷は、桜の咲く季節だけではなく、どの季節でも様々な人や子どものいる家族でにぎわうように、無料で使用できるスペースを増やし、どこを無料で使っていいのかを周知する必要があります。また、駅周辺にボウリング場をつくるなど、他の市の人も来たいと思える施設をつくるのはどうでしょうか。以上の２つから、市民の運動量の増加や自然に触れる回数の増加と共に、熊谷のまちににぎわいが生まれることでしょう。

議席番号２１　　妻沼東中学校　　増田（ますだ）　凰佑（おうすけ）　議員
地域の食材

熊谷市の名物は雪くまや熊谷うどんなどがありますが、さらに熊谷市が発展していくためにも、熊谷市ならではの農産物を取り入れた新しい形の食べ物を作ることができたらと思いました。

そこで、地域の人から農作物を使ったアイディアを募集し、それを取り入れたレシピを考えていくのはいかがでしょうか。また、そのレシピを様々な場所で公開したり、給食のメニューに加えたりすることで普及させていければと思います。

議席番号２２　　荒川中学校　　小和瀬（こわせ）　乃都（のと）　議員
郷土料理について

熊谷市は小麦の生産が盛んで、うどんや炭酸まんじゅうなどたくさんの郷土料理があります。しかし、今の若い世代の人は郷土料理について知らない人が多いです。どの世代にも熊谷の郷土料理を知ってもらうために、インターネットを使ってＰＲ動画を投稿するのはどうでしょうか。

【答弁】質問番号７　産業振興部関係

市長

大谷萌夏議員さん、増田凰佑議員さん、小和瀬乃都議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、大谷さんの「熊谷の未来像」についてですが、現在、令和９年度までのこれからの５年間を計画の期間として、熊谷市が目指すべき将来像を第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画として取りまとめを進めています。

その中で、熊谷駅南口エリアについては、荒川河川敷までエリアに含め、緑と潤いに満ちた豊かな環境を活かしながら、市民体育館を中心に再整備を進め、さまざまな活動や憩いの場を創出できるように準備を進めています。大谷さんから提案のボウリング場のようなレジャー施設の建設はできるかは分かりませんが、市外からも来たいと思ってもらえる魅力あるエリアに整備していきたいと考えています。

次に、増田さんの「地域の食材」についてですが、市内では、食材として、地域特性を活かしたさまざまな農産物が生産されており、それら地域の食材を普及していく方法として、パンフレットやホームページを活用してきました。

これからも、さまざまなアイディアを活用した、効果的な普及方法を研究していきたいと思います。

次に、小和瀬さんの「郷土料理について」ですが、熊谷市は本州トップクラスの小麦の生産量を誇っており、小麦を使った料理は、各家庭で食されてきた歴史があります。また、小麦以外の農産物を使った郷土料理もあり、それらを多くの皆さんに知ってもらうことは、食文化の伝承だけではなく、農産物の地産地消にもつながるものと思っています。

これまでも、ホームページなどに熊谷市産の農産物を使った料理の動画やレシピを掲載してきましたが、これからも、郷土料理の周知のために、動画等を活用していきたいと思います。

産業振興部長

続きまして、大谷萌夏議員さんの「熊谷市の未来像」についてお答えします。

熊谷市は、大型商業施設やオフィスビル、桜の名所である熊谷桜堤が、熊谷駅からほど近い熊谷市中心部に立地していて、こうした施設や場所に市内外から人が集まることで、まちが賑わい、発展してきました。

現在も、荒川河川敷にある荒川緑地は、スポーツをする人だけでなく、散策を楽しむ人にとっても憩いの場となっています。利用については、運動広場やグラウンドは緑化センターで予約が必要ですが、ラグビー場以外は無料で利用できます。指摘のありました利用の周知については、現在、市のホームページで案内していますが、これからも、利用促進を図るため、分かりやすい周知をしていきたいと考えています。

また、まちなかの大型商業施設では、さまざまなお客様が楽しんでもらえるよう、施設のリニューアルや店舗の入替のほか、クリスマスなど季節に合わせたイベ

ント企画など工夫した取組を行っています。熊谷市では、これら大型商業施設や専門店と一緒になって、市内外からの集客力の向上が図れるよう取り組んでいます。

続きまして、増田鳳佑議員さんの「地域の食材」についてお答えします。

熊谷市は、利根川や荒川等の水の恵みによる肥沃な土壌や豊富な地下水と、水路や農地の整備によって、米麦、露地野菜や施設野菜など、地域特性を活かしたさまざまな農作物が生産されています。また、新たな農産物にチャレンジする農業者もいることから、その農産物の消費拡大の面で積極的にＰＲすることは重要ですので、パンフレットやホームページを活用してＰＲをしてきました。

ＰＲ方法の１つとして、消費者に食べ方を周知することは効果的だと考え、ＪＡくまがや女性部などの協力により、さまざまなレシピを作成し、ホームページで情報発信をしてきましたが、これからも、効果的なレシピの周知のため、これまでのホームページのほか、ＳＮＳ等の活用も研究していきたいと思います。

また、市民からアイデアを募集してレシピを考え、公開し、学校給食のメニューに加えてはいかがかとの増田さんからの提案ですが、その取組によって、新しい形の食べ方が生まれ、定着することにより、農産物の消費拡大のみならず、食文化として熊谷の特徴となっていく可能性もありますので、実施の方法について研究していきたいと考えています。

続きまして、小和瀬乃都議員さんの「郷土料理」についてお答えします。

熊谷市では、これまでも、ホームページや料理レシピ検索サイト「クックパッド」を活用して、熊谷市産の農産物を使った料理のレシピや動画を発信しています。また、定期的に開催している市民料理教室でも、熊谷市産の農産物を使用して、手打ちうどんや炭酸まんじゅうなどの郷土料理を参加者に料理体験を通して紹介しています。

小和瀬さんの意見のとおり、熊谷市産の農産物を使用した郷土料理をより多くの人に知ってもらうことは、地域の食文化の伝承とともに、農産物の地産地消にもつながるものと考えています。これからも、インターネット等、簡単で便利に情報を得られる手段を活用し、多くの方に興味をもってもらえるよう、動画や写真等の使い方を工夫していきたいと思います。

【質問】質問番号８　都市整備部、建設部関係

議席番号２３　　中条中学校　　森（もり）　乙稀（いつき）　議員
全ての人が安全に通行できる自転車専用通行帯の設置について

私は、自転車専用通行帯を増やした方が良いのではないかと思います。それには理由があります。今の自転車専用通行帯は道の幅が狭く、すぐ横を通る自動車と接触して事故が起きてしまうと思ったことが今までに何度もあったからです。

そのために、駅前の道路のように広い自転車専用通行帯を多く設置して、車との距離などに不安を感じることなく走ることができると良いと思いました。そうすれば、歩行者や車を心配しながら走ったり、危険を回避するために違う道を通ったりするということがなくなるからです。

議席番号２４　　奈良中学校　　柴田（しばた）　大誠（たいせい）　議員
公園の設置について

私の住んでいる地域では、近場に公園がありません。熊谷スポーツ文化公園や妻沼運動公園など大きな公園はありますが、車でないと行けません。そこで、既存の場所に公園は設置するのは難しいと思うので、新しく住宅街ができる所の近場に公園を作るという動きを推進するのはいかがでしょうか。子育てのスペースとして役立つと思います。

議席番号２５　　三尻中学校　　小玉（こだま）　彩月（さつき）　議員
道路の雑草について

自転車で道路を走っていると、道をふさぐように雑草が生い茂っていることがあります。走路が狭くなり、時には車や歩行者と接触しそうになることもあり、とても危険です。

市で行っている除草作業にも限界があると思いますので、もっと小中学生のロードサポートを充実させ、身近な地域の除草を担うとともに、花植えなどをして自然豊かな道路ができると良いなと思います。

【答弁】質問番号８　都市整備部、建設部関係

市長

森乙稀議員さん、柴田大誠議員さん、小玉彩月議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、森さんの「全ての人が安全に通行できる自転車専用通行帯の設置について」ですが、熊谷市は、地形が平坦で、晴れの日が多いため、比較的自転車を利用しやすい環境にあります。そのため、通勤、通学や買い物など、日常の交通手段として多くの人が自転車を利用しています。また、近年の健康ブームや環境負荷の軽減に関する意識の高まりを背景に、自転車利用のニーズが高まっています。これらのことから、熊谷市では、令和３年度に「熊谷市自転車活用推進計画」を策定し、安心・安全に走行できる自転車通行空間の整備を進めているところです。

次に、柴田さんの「公園の設置について」ですが、公園は、子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層の自然とのふれあい、レクリエーション活動、健康運動、文化活動等多様な活動の場となっています。また、災害時の避難場所や地域の活性化の拠点といった役割もあります。日頃から、市民の皆さんが安心して安全に公園を利用できるよう施設の点検を行い、特に遊具については、事故につながることのないように、安全管理の徹底を図っています。　公園の増設は、現在、上之地区と石原地区で進めている土地区画整理事業区域内に計画しています。また、既存の公園では、老朽化した施設の交換やバリアフリー化を進めています。

これからも、柴田さんの質問のとおり子育てのスペースとして役立つ魅力ある公園整備を心掛けていきます。

次に、小玉さんの「道路の雑草について」ですが、国道や県道、市道は、それぞれの管理者が計画的に除草していますが、特に夏は雑草の成長が早く、対応が間に合わない場合もあります。もし、通行に危険がある場合には、速やかに対応する必要があるので、連絡をください。小玉さんからの質問にあったように、市内、全ての道路の除草を実施することは難しく、道路に面している方や自治会の皆さんなどにも協力してもらっています。また、「スクマム！クマガヤロードサポート制度」に登録してもらったボランティアの皆さんにも清掃・美化活動を行ってもらっています。こうした取組が、小中学生にも広がり、市民の皆さんと一緒に、きれいで安心安全なまちを築けるようにしたいと考えています。

副市長

続きまして、森乙稀議員さんの「全ての人が安全に通行できる自転車専用通行帯の設置について」にお答えします。熊谷市は、令和３年度に「熊谷市自転車活用推進計画」を策定し、「都市環境」「健康増進」「観光振興」「安心・安全」の４つの分野での自転車活用を、総合的かつ計画的に推進しています。この計画では、優先的に整備する路線の選定を行い、自転車利用の多い市街地の道路や、公園・スポーツ施設に接続する道路などを中心に自転車通行空間の整備を計画的に進めています。

現在、国道１７号や県道太田熊谷線、市役所通線など、約２７ｋｍの整備が完了しています。その整備の方法には、歩道、車道、自転車道を構造物で分離する方法や、歩道内や車道の端に通行帯を表示する方法などがあり、道路幅や通行量に応じた整備をしています。

これからも、国や埼玉県と協力し、安心・安全に走行できる自転車通行空間の整備を進め、そのネットワークを広げていきたいと考えています。

都市整備部長

続きまして、柴田大誠議員さんの「公園の設置について」にお答えします。

現在、熊谷市で管理している公園は４０７箇所あります。そのうち、熊谷さくら運動公園、妻沼運動公園や別府沼公園など、大規模な公園が６箇所あります。このような公園を整備するには広大な土地が必要なため、郊外に点在しており、市内外から多くの方にご利用いただいています。　また、その他の小規模な公園は、皆様が容易にご利用いただけるよう市内各所に設置されています。

公園は、良好な市街地の形成を図るため、宅地に一定の水準で、設置しなくてはなりません。熊谷市でも、新しく道路や宅地等を整備する土地区画整理事業において、新しい公園を計画しています。また、規模の大きな分譲住宅等を造る場合には、事業者に公園の設置をお願いしています。

これからも、子育て世代をはじめ、誰もが気持ちよく安心して利用できる公園の整備や管理に努めていきたいと考えています。

建設部長

続きまして、小玉彩月議員さんの「道路の雑草について」にお答えします。

道路に雑草が生い茂って危険な箇所については、道路の管理者が対応しています。市道であれば市が除草しています。皆さんも雑草などにより通行に支障がある箇所を見つけたら、通報をお願いします。市のホームページからダウンロードできる、位置情報や撮影した画像を手軽に送信するアプリもありますので、よろしくお願いします。

市道の除草については、歩道が整備され交通量が多い道路を中心に、年２回から３回実施していますが、市道の総延長が約2,300㎞もあるうえに、特に夏は雑草の成長が早く、小玉さんの質問にもあったように限界があるのが現状です。市内の小中学校のうち、小玉さんの通学する三尻中学校をはじめ５つの小中学校では、県道を対象にした「彩の国ロードサポート団体」として清掃美化活動をしていただいています。熊谷市にも、「スクマム！クマガヤロードサポート制度」があり、ボランティアで市道の歩道の清掃や花植えなどの美化活動を行う制度があります。是非、皆さんにも参加していただいて、安全で快適な道路環境の整備ができたらいいなと考えています。

【質問】質問番号９　選挙管理委員会関係

議席番号２６　　大幡中学校　　小島（こじま）　幸太（こうた）　議員

選挙の投票率向上について

現在、日本では選挙の投票率が下がってきている傾向が見られます。これは、私たちが住む熊谷市にも同じことがいえます。実際、選挙権を持っている人に伺ってみると、「行くのが面倒である」などの理由がありました。

そこで、選挙で投票をした人に何かメリットのあることをする。ということを提案します。例えば、票を入れた人は、対象のお店で割引や商品等と交換するなどのメリットがあるようにする。そして、その情報を市報などを通じて市民の方にお知らせするというのはいかがでしょうか。

議席番号２７　　大里中学校　　小松（こまつ）　夏穂（なほ）　議員

選挙の投票率増加について

現在、選挙の投票率は半分ほどで、投票をしない人は「投票をしても変わらないから」という理由だそうです。私たちはまだ投票することができませんが、１８歳になれば投票する権利が与えられます。投票する権利があるということは、より良い熊谷市にするための方向性を決める権利があるということです。

そこで、投票をすることで熊谷市の未来が変わる可能性があることを多くの人に知ってもらうために「夢貯金」という形で熊谷市の投票率をパーセンテージで表した図を、熊谷市のホームページに掲載することを提案します。分かりやすい図にすることで、選挙に関心がない人でも、見やすく興味を持つ人が増えるのではないかと考えます。

【答弁】質問番号９　選挙管理委員会関係

市長

小島幸太議員さん、小松夏穂議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

選挙の投票率については、全国的に低下傾向にあると言われていて、特に、１８歳から２０歳代の若い世代については、他の年代に比べて投票率が低くなっています。投票率の低下については、その時々の社会情勢や政治的課題、有権者の意識など様々な要因が考えられますが、新聞報道等によると「政治的無関心」が要因のひとつと言われています。

熊谷市では、昨年１０月の衆議院議員総選挙が、熊谷市長選挙、熊谷市議会議員補欠選挙と同日の投票となったため、市民の関心も高く投票率が向上しましたが、今年７月の参議院議員通常選挙では、国や県の平均を下回る投票率となりました。「選挙」は、より良い生活や社会を実現するために、私たちの意見を反映させてくれる代表を決めるものです。投票率の低下は、その意見を反映させる機会を失っていることになりますので、様々な取組で、投票率向上の啓発をしていきたいと考えています。

皆さんも、１８歳になると選挙権を持つことになります。自分の意見を反映させるようによく考えて投票し、その投票を通じて政治に参加してください。

選挙管理委員会事務局長

続きまして、小松夏穂議員さんの「選挙の投票率増加について」にお答えします。

熊谷市では、投票率の向上や有権者の政治意識の向上を目指して、様々な啓発の取組を行っています。選挙時には、市役所本庁舎・行政センターへの懸垂幕の掲出や、市報・ホームページへの掲載、メールやツイッターの配信などを活用した投票の呼びかけを行い、通常時には、市内小・中・高等学校を対象にした選挙啓発ポスターの募集、18 歳の市民に有権者になったことを知らせる啓発ハガキの郵送などを行っています。

投票率については、選挙時には速報として、選挙後は過去の選挙結果として、投票率を含めた投票と開票の結果を表形式でホームページに掲載していますが、図の形式では掲載していません。

小松さんの考えのとおり、選挙とは私たちの生活や社会をより良くする代表者を選ぶ大切な手段であり、「有権者」になることは、選挙を通じて熊谷市の方向性を決める政治の過程に参加する権利を持つことです。これからも、こうした大切な権利である投票を通じて熊谷市の未来がより良く変わることを多くの有権者に関心を持って考えてもらえるよう、投票率のグラフ化を含め、より分かりやすい伝え方を検討していきたいと考えています。

続きまして、小島幸太議員さんの「選挙の投票率向上について」にお答えします。

投票した方へのメリットを提供することについては、店舗等が、投票率向上や店の活性化のため、独自にサービス内容を決定し利用者等にお知らせしていると

考えられます。選挙管理委員会では、有権者から希望があった場合、投票が済んだことの証明書を投票所内で発行していますが、過去の選挙では実際にこれを利用してサービス等を提供した店舗があったようです。しかし、公平・公正を旨とする選挙を管理する選挙管理委員会では、投票した方へメリットを提供したり、一部の店舗等のサービスをお知らせすることは控えたいと思います。

「選挙」は、自分たちの代わりにその意見や思いを反映させてくれる代表を決めること、という考えを市民の方に持っていただけるよう、小島さんの提案のような柔軟な発想を参考にしながら、これからも啓発活動を行い、選挙への関心や投票率の向上に努めていきたいと考えています。

【質問】質問番号１０　教育委員会関係

議席番号２８　　大原中学校　　大渕（おおふち）　雄太（ゆうた）　議員

学校給食について

私は小学校の頃、給食に「五家宝」が出るのがとても楽しみでした。しかし最近、給食で「五家宝」を見る機会が減り、献立を見て「今月も出ないのか」とがっかりする日が続いています。五家宝以外にもいなり寿司や熊谷うどん、フライなど、熊谷の名物をもっとたくさん給食に出してほしいです。

議席番号２９　　荒川中学校　　木下（きのした）　風海矢（ふみや）　議員

給食の更なる人気向上について

僕達中学生が毎日お世話になっている給食は人気があります。

２０１９年に、ラグビーワールドカップが開催され、給食では、期間限定で出場国の伝統料理が出されました。その料理はとてもおいしかったです。

そこで、期間限定にするのではなく、定期的に栄養バランスの整った世界の国々の伝統料理を出してみてはどうでしょうか。

【答弁】質問番号１０　教育委員会関係

市長

大渕雄太議員さん、木下風海矢議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、大渕さんの「学校給食について」ですが、給食は、皆さんの心身の健全な発達には、とても重要なもので、栄養バランスが行き届くとともに、魅力的な献立となるよう栄養士が常に考えて提供しています。皆さんが楽しみにしている熊谷名物「五家宝」は、昔から親しまれていた伝統銘菓で、本年３月に文化庁の地域に根付く食文化「100 年フード」に認定されたこともあり、今年度からまた、提供したいと考えています。そのほか、名物の中でも食数や調理機器の問題で、提供が難しいものもありますが、これから何が提供できるか検討していきたいと思います。

次に、木下さんの「給食の更なる人気向上について」ですが、ラグビーワールドカップが開催された 2019 年に、熊谷ラグビー場で試合を行う６か国の料理を給食として提供しました。目的は、熊谷市での開催を広くピーアールするとともに、その国の文化に対する理解を深めてもらうことでした。

各国の伝統料理は大変好評で、多くの児童生徒の皆さんから、おいしいという感想をいただきました。このような取組が、期間限定でなく定期的にできないかということですが、栄養士を中心に毎月の献立を考える中で、どの国のどの料理が調理可能か、などをよく研究して、学校給食に世界の国々の伝統料理を提供していきたいと思います。

教育長

続きまして、大渕雄太議員さんの「学校給食について」にお答えします。

毎月の献立では、月１回「ふるさと給食の日」を設けており、熊谷市で採れた農産物を使用した料理を定期的に提供しています。その中でも、「熊谷うどん」は熊谷産の小麦「あやひかり」と「さとのそら」をブレンドしたもので、煮込みうどんとして皆さんから好評を得ていますので、その回数を増やしたいと考えています。また、「五家宝」は、今年度からまた提供する予定です。「いなり寿司」や「フライ」などは、数量や調理機器の問題から手作りすることは難しく、給食に適した既製品もないため、それぞれのお店で食べてください。

熊谷市の名物を提供することは、食育とともに地元で採れたものを地元で消費する「地産地消」の推進にもつながりますので、今後の献立作成の上でも、多く取り入れていくよう努めていきます。

これからも、おいしく魅力ある給食を提供できるように、皆さんや各学校の食育主任の先生方の意見を聴きながら、創意工夫して献立作りに取り組んでいきます。

続きまして、木下風海矢議員さんの「給食の更なる人気向上について」にお答えします。

2019 年のラグビーワールドカップ記念給食では、熊谷ラグビー場で試合をした

ロシア、ジョージア、ウルグアイ、サモア、アルゼンチン、アメリカの６か国の代表的な料理を調理して皆さんに提供しました。当時は、各国のどの料理を、どのように調理するか、栄養士が何回も集まって話し合い、試行錯誤の末、完成することができました。木下さんから、あらためて「とてもおいしかった。」と言っていただき、うれしい限りです。

当時は、ラグビーワールドカップという大きなイベントに合わせて、熊谷市での開催を広くピーアールするとともに、６か国の文化に対する理解を深めてもらうことを目的に提供しましたが、世界にはたくさんの国々の伝統料理がありますので、例えば、わがまち自慢の埼玉パナソニックワイルドナイツの試合相手国の料理を提供していきたいと思います。

また、提供する国の位置や料理の詳細などの情報は、その国の文化に触れることや食育推進にもつながりますので、ホームページや毎月発行している「給食だより」にも掲載したいと考えています。各国の料理を定期的に提供することにより、給食の人気がますます向上していくよう努めていきます。

【質問】質問番号１１　教育委員会関係

議席番号３０　　江南中学校　　田中（たなか）　宥帆（ゆうほ）　議員

ラグビーの授業について

２０１９年に熊谷市のラグビー場でもラグビーワールドカップの試合が開催されました。以降、「ラグビータウン熊谷」として有名になってきました。しかし、熊谷市の児童・生徒は、ラグビーにあまり関心がないように感じます。そこで、ラグビーをもっと好きになってもらうための取り組みが必要だと考えます。子どもたちが好きになれば、大人も自然と興味を持つと思います。そのようにして、たくさんの人にラグビーの素晴らしさを知ってもらい、熊谷市が大人も子どももラグビーが大好きな町となってほしいと思います。そこで、児童・生徒にとって最も身近な授業にラグビーを必修で取り入れるのはどうでしょうか。

議席番号３１　　三尻中学校　　野崎（のざき）　紘暉（こうき）　議員

校外学習について

新型コロナウイルスの影響で学校を出て学ぶ機会が減ってしまっています。熊谷市では、徳力や体力を含めた「学力日本一」を目指しています。校外学習は、まさにその徳力を養うためにも重要です。その準備や当日の活動を通じ、仲間との絆を深めたり、自分の役割を果たすことで大きな達成感を得たりすることもできます。例えば、コロナ前に訪れていた妻沼聖天様の見学の復活、そして、職場体験など貴重な経験がよりしやすい仕組みづくりなど、校外での活動がしやすい環境を整えていただきたいです。

議席番号３２　　大里中学校　　山室（やまむろ）　真司（しんじ）　議員

熊谷次郎直実の PR について

市に有名人や歴史人物がいると、市がより魅力的になり、住みたいと思ってもらえると感じました。熊谷市には、有名な歴史人物の熊谷次郎直実がいて、駅前に像が立っています。そこで、熊谷市をより魅力的にするために、全国に直実をアピールしたり、市内の小中学校で直実のことを学ぶ特別授業を行うのはどうでしょうか？

【答弁】質問番号１１　教育委員会関係

市長

田中宥帆議員さん、野崎紘暉議員さん、山室真司議員さんの質問に、私から全般的にお答えします。

はじめに、田中さんの「ラグビーの授業について」ですが、今年９月、熊谷市を本拠地とする埼玉パナソニックワイルドナイツのリーグワン優勝パレードが開催され、１万人にものぼる多くの方々が来場し、喜びを分かち合い、ラグビータウンとしての新たな歴史の１ページが加わりました。田中さんの提案のとおり、小中学生の皆さんが、ラグビーやタグラグビーに親しむ機会を充実させていくことは、将来、日本を代表する選手が、この熊谷市から誕生することに今後も大きな期待を寄せるとともに、市全体の更なる盛り上がりにつながるものと考えます。

次に、野崎さんの「校外学習について」ですが、学校から一歩外へ踏み出し、社会に目を向けると、そこには豊かな自然や歴史、文化や芸術のほか、多くの人々の生活や世の中の仕組みが見えてきます。中学生である皆さんが郷土に誇りを持つとともに、多様な生き方、働き方について考え、経験し、幅広い視野を持って今後活躍していくためにも、熊谷市の教育と産業、福祉など様々な部門が一層連携をし、皆さんの体験の機会を充実させていきます。

次に、山室さんの「熊谷次郎直実の PR について」ですが、直実公は、武士としては「日本一の剛のもの」、僧侶としては「坂東の阿弥陀仏」と称されたとされる人物です。私は、武士としての「直実」も魅力的ですが、それよりも、戦の無情さや世の無常を感じ出家した「蓮生」としての生き方について、これから大いに PR していきたいと考えています。例えば、熊谷駅北口の直実像に対して、南口に蓮生像を建てたり、蓮生の行いや功績について、小学生向けにマンガでわかりやすく解説したリーフレットを作成することなどを計画しています。今後、魅力的な郷土熊谷となるよう、多くの方々に、「直実」、「蓮生」に関する情報を発信していきたいと考えています。

教育長

続きまして、田中宥帆議員さんの「ラグビーの授業について」にお答えします。

2019 年、今から３年前、ラグビーワールドカップが熊谷市でも開催され、本市では約 14,000 人の子どもたちが観戦しました。世界で活躍する選手たちの力強いプレーは、今も強く心に残っていることでしょう。

熊谷市では、ラグビータウンの担い手である子どもたちが、ラグビーに親しめるよう、アルカス熊谷によるタグラグビー教室や、小学生タグラグビー大会を開催するなどしています。

そうした中、田中さんの提案には、「大人も子どもラグビーが大好きな街になってほしい」という思いがあふれており、大変うれしく思います。熊谷市では、「ラグビー」というスポーツに親しみ、友達とともに伸び伸びと、自由にプレーを楽しむ経験、これを小・中学校の段階では大切にしていきたいと考えています。そうした経験が、いずれ高校、大学といったこれから先、多くのスポーツの中から「ラグ

ビー」を選択し、選手として活躍するきっかけになってほしいと願っています。
　また、スポーツは「する」だけでなく、「観戦する」という楽しみもあります。是非、田中さんには、ラグビーの魅力や楽しさを、様々な形で発信し、ラグビータウン熊谷の一員として、盛り上げていただきたいと思います。

　続きまして、野崎紘暉議員さんの「校外学習について」にお答えします。
　校外学習や体験学習は、自然や歴史、文化などに直接触れる学習であり、まさに野崎さんが言う「知・徳・体のバランスのとれた学力」、これに繋がるものです。
　熊谷市には国宝歓喜院聖天堂をはじめ、幡羅官衙遺跡群、備前渠用水路など、全国に誇れる文化遺産や史跡等が数多くあり、子どもたちが熊谷の文化と歴史を直接学ぶことができる素晴らしい環境が整っています。特に、野崎さんの質問にありました国宝については、今年度から、学校から見学の希望があった場合、無料で見学できるようにしています。
　職場体験については、熊谷市の中学生が職業や仕事の実際を体験することを通して、自分の進路を考えたり、社会人としての基本を学んだりする貴重な機会です。市内のスーパーマーケット、ドラッグストア、老人福祉施設、幼稚園、保育園、農家、洋菓子店など、多くの施設、事業者の御協力を得ながら実施しています。今年度は既に６つの中学校が実施することができ、野崎さんが通う三尻中学校でも、これから地域の施設や企業などで職場体験を行う予定になっていますね。
　新型コロナウイルスの感染拡大は、皆さんが楽しみにしている学校行事にも大きな影響を与えることになりましたが、現在は、各学校と連携し、行事の見直しや実施体制の工夫など、新しい生活様式での体験活動を進めているところですので安心してください。

　続きまして、山室真司議員さんの「熊谷次郎直実の PR について」にお答えします。
　　現在、熊谷図書館では、熊谷直実・法力坊蓮生に関するホームページを作成しています。このホームページは、直実・蓮生の生涯や伝説、ゆかりの寺院や史跡などの情報を集めて紹介するもので、このホームページを見れば、直実・蓮生の事が全てわかるものとなっています。来年３月の公開を予定していますので、楽しみにしてください。
　また、小中学校での特別授業につきましては、郷土の偉人を学ぶことは、私たちの生まれた郷土熊谷に対する愛着を育むために必要なことと思います。来年度作成予定の直実・蓮生に関するマンガやリーフレットをもとに郷土学習等の時間で取り上げたり、希望する学校に学芸員が出前授業を行うなど、各学校と実施に向けて調整していきたいと考えています。